まだまだ暑い日が続いてますが、確実に秋は近づいています。

玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 20
R2・9・23

家庭科・社会科でゲストティーチャーに 地域ボランティアが放課後の消毒作業に！

地域の人材を学校に

本校では今年度の重点事項の一つに「地域人材の活用」があります。私たちが住んでいる玉造地区にもたくさんの素晴らしい人材がいます。そういった地域の人材の専門性を学校の授業等の教育活動で活用することで、生徒たちに「本物」にふれさせ、学習意欲を高めていきたいと考えています。

すでに体育のダンスの授業、図書室の環境整備、昼休みの図書の貸し出しのお手伝いで地域の方に来校していただいています。また、先週は一年生の社会科の時間に、教育委員会の社会教育指導員の高野先生を講師に、弥生時代の文化について、弥生土器や古墳についての話を聞きました。実際に玉造地区から出土した土器や古墳から出た装飾品を触ったりすることで、生徒も興味深く、普段以上に授業に熱心に取り組んでいました。

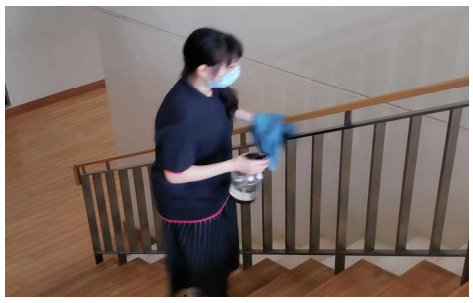
社会教育指導員の講話

家庭科の授業では二年生の「裁縫」の実習に、地区内の手芸サークルのなさんに協力していただきました。裁縫のまつり縫いに苦戦している生徒に個別に対応していただき、何とかできるようになりました。

家庭科の裁縫の様子

また、火・木曜日の午後五時半になると、ボランティアの行方市役所職員の高野さんが来校し、みんなが使う水道や手すり、スイッチ等の消毒をしていただいています。以前、先生をしている友人から、子どもたちが帰った後、毎日消毒作業をしている話を聞き、お手伝いをすることで少しでも先生方の負担が軽くなればということでボランティアに申し込んだそうです。

このように本校では地域の人材を教育活動に活用していくことで、地域の一員であることを実感することと、学習意欲を高めていきたいと考えています。これからもたくさんの教科等で実施していきたいと思っています。


学校ボランティアの消毒作業

学級紹介

三年三組 上野・田中学級

級訓「百花笑乱」

私たちの学級訓である「百花笑乱」は，いつもみんなの笑いが絶えないそんな学級にしたい，笑顔の花が咲きまくっているそんな学級を目指したい，という願いから決まりました。

私たちの学級の特徴は，みんな仲がとても良いことです。気安く，誰にでも話せます。また，グループ間の壁もなく，分け隔てなく接することができるので，とてもにぎやかで楽しい学級です。でも，そんな中でも，勉強に対する意識は高く，テストが近くなると，みんなで教え合ったりする光景もたくさん見られます。目標に向かって，みんなで進むことのできる一体感があるのが三組の特徴です。

三組の課題は，周りに気を遣いすぎて，なかなか自分の考えや意見を出せずに，人に合わせてしまう人が多いことです。また，最近までは，毎日提出するはずの自学帳を忘れる人が多かったことです。でも体育祭が終わってからは提出率も上がってきました。

担任の上野先生はおもしろくて，かわいい先生です。疲れているときには，先生の顔を見ていると何となく癒やされます。田中先生は何でも話せる親しみやすい先生です。

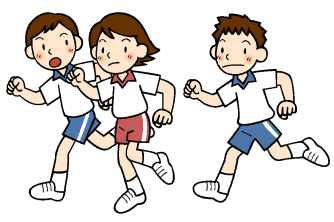
この三組で卒業できることをみんなうれしく思っています。卒業までには受験の時にも友だち同士が互いに支え合える学級にしていきたいと思います。

駅伝練習始まる！ 全校あげて応援しよう！

十八日から玉中駅伝チームが立ち上がり、練習が始まりました。今年は新型コロナウィルスの感染拡大により、駅伝大会の開催が危ぶまれていましたが、開催が正式に決定し、例年に比べ遅くなりましたが練習を始めました。

練習期間も短く、時間も朝の三十分、帰りの一時間と限られた時間ですが、限られた中で最善を尽くしていきたいと思います。

練習初日はみんなで声を掛け合いながら集団走を行いました。例年に比べ、選手が一つになって全力で走っている姿を見て、なんか期待できそうな感じがしました。玉中のみんなの代表である選手たちを全校で応援していきましょう。



編集後記

「やさしさに包まれたなら」

♪カーテンを　開いて
静かな木漏れ日の
優しさに包まれたなら
きっと
目にうつるすべてのことは
メッセージ　♪

荒井由実（現　松任谷由実）さんの『やさしさに包まれたなら』の歌詞の一部です。映画『魔女の宅急便』でも使用されました。中学生の皆さんも耳にしたことがある曲ではないでしょうか。

新型コロナウィルス感染症の広がりで自宅での生活がこれまで以上に多くなってきている昨今。これまで目にしていたけれど、あまり気が付かないかったことに気が付けるチャンスだと思うようになった。家族がみなさんにしてくれる日々の生活。「やさしさ」がいっぱいではないだろうか。当たり前に思っていた食事を作ってくれるお母さん。一食をつくるのに、どれだけの時間をかけているのか。一日の仕事を終えて帰ってきたお父さん。疲れた顔みせずに、笑顔で家族と会話する。孫のために学校までの送迎をしてくれているおじいちゃん、おばあちゃん。声をかければすぐに反応してくれるお兄ちゃん、お姉ちゃん、弟、妹。

家にいることが多くなり、初めて気づいた家族。家族の優しさに包まれて育ってきたみなさん。みなさんの目に映るすべてのことが、あなたへのメッセージです。

当たり前の日常、優しさに感謝。

（文責：小野口　吉政）